

2025年11月30日 ルカ1：8－45

説教題 「いと高き者の力があなたをおおう」

アドベント(待降節)に入りました。暗き世に光を照らすため、救いと命を与えるために生まれた主に感謝します。

エリサベツとマリヤの懐胎と、御使いによる予告の記事ですが、好対照の特徴を持つ人の応答が描かれています。

「ザカリヤよ、あなたの祈が聞きいれられた」、祈りも何十年も経ってから聞かれると、祈ったことも忘れてしまいますが、神様は最善のタイミングで答えてくださいます。「時が来れば成就するわたしの言葉」です。「彼はあなたに喜びと楽しみとをもたらし、多くの人々もその誕生を喜ぶ」そのような子が生まれ、母エリサベツは、マリアの挨拶の声を聞いてこの子がおなかの中で動き、「子供が胎内で喜びおどりました。主のお語りになったことが必ず成就すると信じた女は、なんとさいわいなことでしょう」と語りました。

クリスマスは喜びです。タイミングや方法は人の予期するところではありませんでしたが、「神には、なんでもできないことはありません」。畏れることはないのです。「聖霊があなたに臨み、いと高き者の力があなたをおおうでしょう。それゆえに、生れ出る子は聖なるものであり、神の子」という奇跡は起こるのです。

「見よ」という言葉、人の注意を促す言葉が5回出てくるのも注目です。神様は私たちに語り掛け、力を持って臨み、事を成就してくださいます。私たちも信じて目を見張り、受け入れて恵みを得るのです。

序 「聖霊があなたに臨み、いと高き者の力があなたをおおうでしょう。それゆえに、生れ出る子は聖なるものであり、神の子と、となえられるでしょう。」

2コリント 2:14 しかるに、神は感謝すべきかな。神はいつもわたしたちをキリストの凱旋に伴い行き、わたしたちをとおしてキリストを知る知識のかおりを、至る所に放って下さるのである。

2:15 わたしたちは、救われる者にとっても滅びる者にとっても、神に対するキリストのかおりである。

2:16 後者にとっては、死から死に至らせるかおりであり、前者にとっては、いのちからいのちに至らせるかおりである。いったい、このような任務に、だれが耐え得ようか。

2:17 しかし、わたしたちは、多くの人のように神の言を売物にせず、真心をこめて、神につかわされた者として神のみまえて、キリストにあって語るのである。

2コリント 6:1 わたしたちはまた、神と共に働く者として、あなたがたに勧める。神の恵

みをいたずらに受けてはならない。

6:2 神はこう言われる、／「わたしは、恵みの時にあなたの願いを聞きいれ、／救の日にあなただけを助けた」。見よ、今は恵みの時、見よ、今は救の日である。

6:3 この務がそしりを招かないために、わたしたちはどんな事にも、人につまづきを与えないようにし、

6:4 かえって、あらゆる場合に、神の僕として、自分を人々にあらわしている。すなわち、極度の忍苦にも、患難にも、危機にも、行き詰まりにも、

6:5 むち打たれることにも、入獄にも、騒乱にも、労苦にも、徹夜にも、飢餓にも、

6:6 真実と知識と寛容と、慈愛と聖霊と偽りのない愛と、

6:7 真理の言葉と神の力とにより、左右に持っている義の武器により、

6:8 ほめられても、そしられても、悪評を受けても、好評を博しても、神の僕として自分をあらわしている。わたしたちは、人を惑わしているようであるが、しかも真実であり、

6:9 人に知られていないようであるが、認められ、死にかかっているようであるが、見よ、生きており、懲らしめられているようであるが、殺されず、

6:10 悲しんでいるようであるが、常に喜んでおり、貧しいようであるが、多くの人を富ませ、何も持たないようであるが、すべての物を持っている。

ピリピ 3:3 神の霊によって礼拝をし、キリスト・イエスを誇とし、肉を頼みとしないわたしたちこそ、割礼の者である。

3:4 もとより、肉の頼みなら、わたしにも無くはない。もし、だれかほかの人が肉を頼みとしていると言うなら、わたしはそれをもっと頼みとしている。

3:5 わたしは八日目に割礼を受けた者、イスラエルの民族に属する者、ベニヤミン族の出身、ヘブル人の中のヘブル人、律法の上ではパリサイ人、

3:6 熱心の点では教会の迫害者、律法の義については落ち度のない者である。

3:7 しかし、わたしにとって益であったこれらのものを、キリストのゆえに損と思うようになった。

3:8 わたしは、更に進んで、わたしの主キリスト・イエスを知る知識の絶大な価値のゆえに、いっさいのものを損と思っている。キリストのゆえに、わたしはすべてを失ったが、それらのものを、ふん土のように思っている。それは、わたしがキリストを得るためであり、

3:9 律法による自分の義ではなく、キリストを信じる信仰による義、すなわち、信仰に基づく神からの義を受けて、キリストのうちに自分を見いだすようになるためである。

3:10 すなわち、キリストとその復活の力とを知り、その苦難にあずかって、その死のさまとひとしくなり、

3:11 なんとかして死人のうちからの復活に達したいのである。

3:12 わたしがすでにそれを得たとか、すでに完全な者になっているとか言うのではなく、ただ捕えようとして追い求めているのである。そうするのは、キリスト・イエスによって捕

えられているからである。

3:13 兄弟たちよ。わたしはすでに捕えたとは思っていない。ただこの一事を努めている。
すなわち、後のものを忘れ、前のものに向かってからだを伸ばしつつ、

3:14 目標を目ざして走り、キリスト・イエスにおいて上に召して下さる神の賞与を得ようと努めているのである。

エペソ 4:1 さて、主にある囚人であるわたしは、あなたがたに勧める。あなたがたが召されたその召しにふさわしく歩き、

4:2 できる限り謙虚で、かつ柔和であり、寛容を示し、愛をもって互に忍びあい、

4:3 平和のきずなで結ばれて、聖霊による一致を守り続けるように努めなさい。

4:4 からだは一つ、御霊も一つである。あなたがたが召されたのは、一つの望みを目ざして召されたのと同様である。

4:5 主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ。

4:6 すべてのものの上にあり、すべてのものを貫き、すべてのものの内にいます、すべてのものの父なる神は一つである。

4:7 しかし、キリストから賜わる賜物のはかりに従って、わたしたちひとりびとりに、恵みが与えられている。

4:8 そこで、こう言われている、／「彼は高いところに上った時、／とりこを捕えて引き行き、／人々に賜物を分け与えた」。

4:9 さて「上った」と言う以上、また地下の低い底にも降りてこられたわけではないか。

4:10 降りてこられた者自身は、同時に、あらゆるものに満ちるために、もろもろの天の上にまで上られたかたなのである。

4:11 そして彼は、ある人を使徒とし、ある人を預言者とし、ある人を伝道者とし、ある人を牧師、教師として、お立てになった。

4:12 それは、聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせ、キリストのからだを建てさせ、

4:13 わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである。

4:14 こうして、わたしたちはもはや子供ではないので、だまし惑わす策略により、人々の悪巧みによって起る様々な教の風に吹きまわされたり、もてあそばれたりすることがなく、

4:15 愛にあって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達するのである。

4:16 また、キリストを基として、全身はすべての節々の助けにより、しっかりと組み合わされ結び合わされ、それぞれの部分は分に応じて働き、からだを成長させ、愛のうちに育てられていくのである。

皆様おはようございます。いよいよアドベントに入りました。寒さも増し加わり、氷点下の気温の朝を迎え、今週の木曜日には雪の天気予報となりましたが、私たちの心の中はイエス様のお誕生を待ち望んで温められています。

時は12月目前、年末の大掃除の時期ですが、私たちはアドベントの時、信仰の大掃除の時を今年も迎えております。それはどういう意味かと言いましたら、私たちが日に日に目に見える者にばかり捕らわれて、目に見えない神様に頼ることをおろそかにしていることを反省して神様に対して目を開き、自覚的に意識的に信仰の目を見開いてら会をもう一度見渡すということです。そんなことを思いながら今日の箇所を読み進めてまいりましょう。

エリサベツとマリヤの懐胎と、御使いによる予告の記事ですが、好対照の特徴を持つ人の応答が描かれています。

神様の介入は実に唐突で、度肝を抜くものがあります。

- 1:8 さてザカリヤは、その組が当番になり神のみまえに祭司の務をしていたとき、
1:9 祭司職の慣例に従ってくじを引いたところ、主の聖所にはいって香をたくことになった。
1:10 香をたいている間、多くの民衆はみな外で祈っていた。
1:11 すると主の御使が現れて、香壇の右に立った。
1:12 ザカリヤはこれを見て、おじ惑い、恐怖の念に襲われた。
1:13 そこで御使が彼に言った、「恐れるな、ザカリヤよ、あなたの祈が聞きいれられたのだ。あなたの妻エリサベツは男の子を産むであろう。その子をヨハネと名づけなさい。
1:14 彼はあなたに喜びと楽しみとをもたらし、多くの人々もその誕生を喜ぶであろう。
1:15 彼は主のみまえに大いなる者となり、ぶどう酒や強い酒をいっさい飲まず、母の胎内にいる時からすでに聖霊に満たされており、
1:16 そして、イスラエルの多くの子らを、主なる彼らの神に立ち帰らせるであろう。
1:17 彼はエリヤの霊と力とをもって、みまえに先立って行き、父の心を子に向けさせ、逆らう者に義人の思いを持たせて、整えられた民を主に備えるであろう」。

全ては神様のご計画であり、ザカリヤが香をたく当番に当たったのもすべて神様のお取り計らいです。彼も妻もずっと子供が与えられるようにと祈りながら長年間かれず、とうにその年月を過ぎて祈りを忘れてしまったというそのタイミングで神様が働かれるのも、神様の緻密な計算の結果、周到なお導きの中にあります。

全ては神様の良きご計画の中にあり、すべてがあらかじめ用意された恵みなのですが、それをそのまま信じ受け入れることが出来ないのが私たち人間の問題です。

祈りは聞かれた、わが子が生まれる、そしてその子はすごい子になる。素晴らしいことが語られても、その唐突の祝福のメッセージは、パイプにものが詰まって水が流れて行かないように彼の頭上を通り過ぎていきます。そして彼はこういってしまいます。

1:18 するとザカリヤは御使に言った、「どうしてそんな事が、わたしにわかるでしょうか。わたしは老人ですし、妻も年をとっています」。

私には分かりません。理解できません。従って信じられません。

私たちもどれだけこのような応答を神様にしているのでしょうか。神様の素晴らしい御業が、そしてそれは他ならぬ私たちの祈り願いへの神様のお答えなのに、願った私たちがその結果を拒むのです。恵みが私たちの目の前に来ているのに、なぜなのでしょう。私たちはこのアドベントの時、そのような偏狭な私たちの心を大掃除しましょう。信仰の心で、偏屈で神様に口答えして疑おうとする心を掃除して一掃しましょう。

1:19 御使が答えて言った、「わたしは神のみまえに立つガブリエルであって、この喜ばしい知らせをあなたに語り伝えるために、つかわされたものである。

1:20 時が来れば成就するわたしの言葉を信じなかったから、あなたは口がきけなくなり、この事の起る日まで、ものが言えなくなる」。

時が来れば実現するのです。神様の御前にいる御使いが来て語っているのに、私たちが四の五の言うことにはないのです。ザカリヤは黙って反省して、事柄がどんどん進む恵みの光景を黙ってみていなさいということになるのです。それはどんどん実現していくのです。私たちは「時が来れば成就する神様の言葉」、聖書の言葉をどんなときにも信じる事が出来るのです。

1:24 そののち、妻エリサベツはみごもり、五か月のあいだ引きこもっていたが、

1:25 「主は、今わたしを心にかけてくださって、人々の間からわたしの恥を取り除くために、こうしてくださいました」と言った。

ザカリヤ刃物を語らず、じっと神様の御業を見ていました。舌が解けて感謝を語るその時まで。

1:26 六か月目に、御使ガブリエルが、神からつかわされて、ナザレというガリラヤの町の一処女のもとにきた。

1:27 この処女はダビデ家の出であるヨセフという人のいいなづけになっていて、名をマリヤといった。

1:28 御使がマリヤのところにきて言った、「恵まれた女よ、おめでとう、主があなたと共におられます」。

1:29 この言葉にマリヤはひどく胸騒ぎがして、このあいさつはなんの事であろうかと、思ひめぐらしていた。

さて唐突な介入はマリアにももたらされました。

彼女もまた深く困惑しましたが、心の中で必死に意味を探ろうと反芻していました。

1:30 すると御使が言った、「恐れるな、マリヤよ、あなたは神から恵みをいただいているのです。

1:31 見よ、あなたはみごもって男の子を産むでしょう。その子をイエスと名づけなさい。

1:32 彼は大いなる者となり、いと高き者の子と、となえられるでしょう。そして、主なる神は彼に父ダビデの王座をお与えになり、

1:33 彼はとこしえにヤコブの家を支配し、その支配は限りなく続くでしょう」。

さしてついにマリアは口を開きます。

1:34 そこでマリヤは御使に言った、「どうして、そんな事があり得ましょうか。わたしにはまだ夫がありませんのに」。

そんなことは理解できない、信じられないと即座に言い放ったザカリヤとは一味違います。マリヤは、「どうしたらそのようなことが起こり得るでしょうか。どうしたらそれが可能になるでしょうかと、肯定的に好意的に受け止めて語っています。

1:35 御使が答えて言った、「聖霊があなたに臨み、いと高き者の力があなたをおおうでしょう。それゆえに、生れ出る子は聖なるものであり、神の子と、となえられるでしょう。

1:36 あなたの親族エリサベツも老年ながら子を宿しています。不妊の女といわれていたのに、はや六か月になっています。

1:37 神には、なんでもできないことはありません」。

聖霊があなたに臨み、いと高き者の力があなたをおおうでしょう。それゆえに、生れ出る子

は聖なるものであり、神の子と、となえられるでしょう。

神様のお言葉を受け入れ。言葉なるイエス様が聖霊により懐胎されました。

私たちも聖霊により御言葉を理解して神様のお言葉を受け入れる時、私たちのみに何かが起こるのです。聖霊があなたに臨み、いと高き者の力があなたをおおう。そして私たちはイエス様をこの身で表し証しする証し人になるのです。

神さまにはすべてのことが可能です。何も不可能なことはありません。

1:38 そこでマリヤが言った、「わたしは主のはしためです。お言葉どおりこの身に成りますように」。そして御使は彼女から離れて行った。

1:39 そのころ、マリヤは立って、大急ぎで山里へむかいユダの町に行き、

1:40 ザカリヤの家にはいってエリサベツにあいさつした。

1:41 エリサベツがマリヤのあいさつを聞いたとき、その子が胎内でおどった。エリサベツは聖霊に満たされ、

1:42 声高く叫んで言った、「あなたは女の中で祝福されたかた、あなたの胎の実も祝福されています。

1:43 主の母上がわたしのところにきてくださるとは、なんという光栄でしょう。

1:44 ごらんなさい。あなたのあいさつの声がわたしの耳にはいったとき、子供が胎内で喜びおどりました。

1:45 主のお語りになったことが必ず成就すると信じた女は、なんとさいわいなことでしょう」。

主のお語りになったことが必ず成就します。ここにはこの上ない喜びがあります。

20節、31節、36節、38節、44節には「見よ!」という語り掛けがあります。何時も神様は私たちに恵みの介入をなさり、信じ、受け入れ、従いなさいと促しておられます。主を信じて応答するものであり続けるために信仰の大掃除を続けてまいりましょう。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。人の思いや願いや

タイミングを超え、人知を超えてあなたは最善の御業を成してください

います。祈り願ったこと以上の結末を私たちにを見せてくださいます。私

私たちはそのような神様の素晴らしい御業を注意深く見つめます。あなたは私たちの心を喜びで満たしてくださいからありがとうございます。あらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。私たちをお用い下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン